



今年度、本校では「志を持ち 自ら学び 良さを伸ばし合う生徒」の育成を学校教育目標に掲げ、明日も来となる丸塚中学校 ～誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校～ を目指す学校像とし、【一步前進】を合言葉に日々の教育活動を行ってまいりました。

このことについて、教育活動の成果が生徒の姿としてどの程度表れているのかを検証するため、生徒・保護者を対象としてアンケートを実施しました。回答への御協力、ありがとうございました。結果を検証し、改善点をもとに来年度の教育活動に活かしてまいります。

1 生徒へのアンケート結果より

「各教科の授業の内容がよく分かる」の項目では、どの教科の集計を見ても、「そう思う」「大体そう思う」の割合が8割以上に達しており、各教科の授業内容の理解度が進んでいると考えられます。数値が低い「数学・理科・英語」であっても「そう思わない」という生徒が2学期に減っているのは先生方がわかりやすい授業を心掛けているためだと思われます。

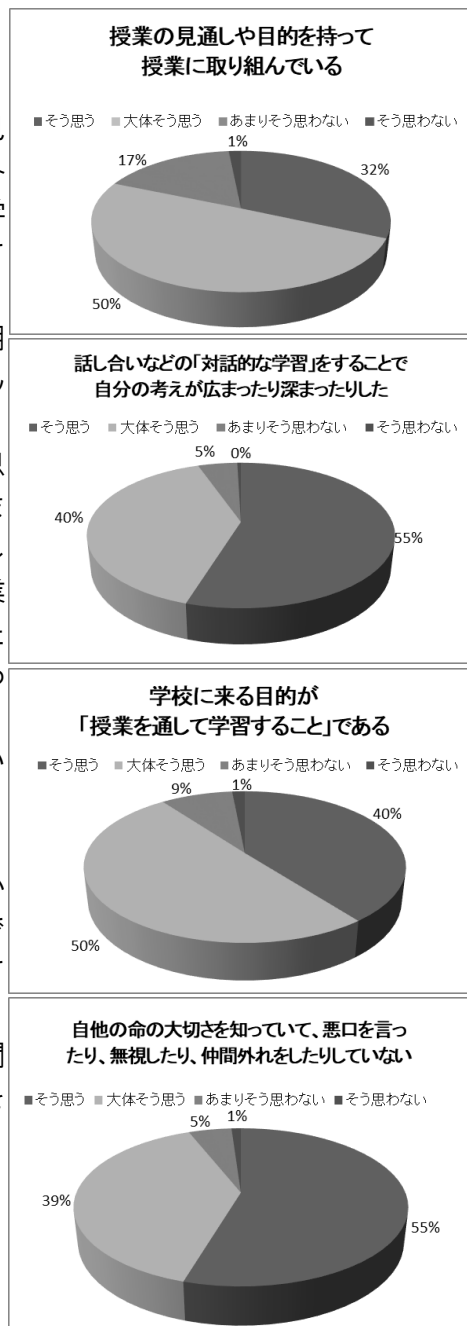
「教科を学ぶ意義を知り、めあてを持って授業に臨んでいる」は2学期に90%に達し、「1時間の授業の見通しや目的を持って授業に取り組んでいる」が2学期に82%になりました。また、「1時間の授業の中で、身に付ける大切な内容の確認ができる授業になっている」では、「そう思う」「大体そう思う」の割合は1学期に92%、2学期に94%になりました。「対話的な学習をすることで自分の考えが広まったり深まったりした」という項目では、95%に達しています。コロナ禍であっても、授業の中で話し合いなどの「対話的な学習」から自分の意見をしっかり話せたり、人の意見をしっかり聞いたりすることが身に付いている現れだと思われれます。

「明日も来となる丸塚中」では、90%に達していますので落ち着いた安心感のある学校になっていると感じています。

「登校する目的」では、「学習」と「友達」が9割を示し、「部活動」を大きく上回っており、学習成果を上げることが関心事であることが分かります。友達と積極的に関わったり、仲間を認めたりする数値も高いので「学習」と「友達」の充実度が「明日も来となる丸塚中」につながっているとさえそうです。

「自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間外れをしたりしていない」や「学校や社会のきまり（ルールや約束事）を守って生活している」、「自分からすすんで明るくあいさつをしている」

「心身の健康のため、身の回りを清潔にしたり、朝食を欠かさず食べたり気温にあわせて衣服を着脱したり、自分の健康には十分気を付けている」は、「そう思う」「大体そう思う」が9割を超えています。落ち着いた、あいさつのできる丸塚中になっているということがわかります。

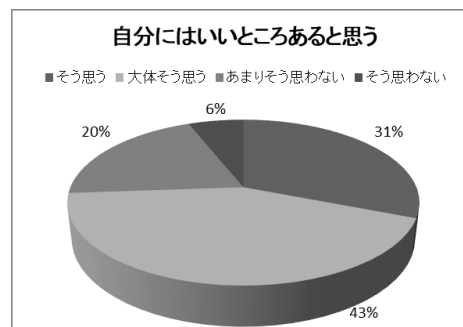


2 保護者へのアンケート結果より

どの項目の数値も1学期と2学期で大きな変化はありませんでしたが、全体的には昨年度より数値が高くなっています。「積極的に取り組む」「あきらめない」の数値が他と比較するとやや低くなっており、この項目の改善が家庭から求められている部分であると考えています。生徒のアンケートと同様に指導が必要であると感じています。

特に数値の向上が見られたのは「生徒中心の学校行事」の項目であり、『体育大会』や『学芸発表会』での姿や普段の生活を目にする事で良い結果に繋がったのだと考えられます。

「いつも子どもたちのために、ありがとうございます。コロナ禍での学校生活は、いろいろ制限がありましたが、その中でも、部活や様々な行事を通して、息子は楽しく学校生活を送れました。」「コロナで休んだ時に、オンライン授業をやって下さりありがとうございました。」などの好意的な意見も多く見られ、とてもうれしく思います。



3 課題

「自分には、いいところがあると思う」や「苦しいことや困難なことがあっても、決してあきらめないで取り組んでいる」という質問がなかなか伸びていません。今後も積極的に取り組む姿勢を育て、「できた」という満足感を感じさせる指導をしていきたいと考えています。学校の活動は生徒中心に行っていると感じ先生方とも相談しやすい雰囲気ができていますので「自己肯定感を高め」、「あきらめない心を育て」る指導を心掛けたいと思います。

4 改善策

授業の中での発言を周囲の生徒が認める雰囲気をつくるためにも、学期初めに時間を設けて学級目標を達成させるための具体的な方法を学級で検討します。丸塚中学区で平成25年の生徒会を中心に考えた「いじめ撲滅宣言」を活用しながら学校や学級での自分の居場所をつくり、自己肯定感を高められるようにします。

また、現在も行っている「こころの日」や「こころパワーアッププロジェクト」を継続して行うことで、今以上に人間関係作りの強化を図ることができると考えています。自己肯定感やあきらめない心を育てるための実践を継続します。

体育大会や学芸発表会などの行事の時に目標を立てながら学級で協力する雰囲気はできているので、目標を達成させようとする強い意志を育てられるような指導を心掛け、たとえ目標が達成できなかったとしても努力する過程が大切であることを学級で伝える機会を作ります。学習についてもテスト勉強計画を立てるだけでなく、自分の目標を明確にして「テスト直前学習会」を活用しながら、あきらめない心を実感させたいと考えています。

5 学校運営協議会での御意見と今後の取組

生徒・保護者アンケートに基づいた自己評価について、2月20日（月）に行った学校運営協議会において、委員の皆様から多くの御意見をいただきました。

- ・アンケート結果の自己肯定感の低さが気になった。小さな成功体験や達成感を積み重ねることが大切だと思った。
- ・日本人の自己肯定感が低いのは、道徳的なことからなのかは分からないが、思春期の時期は変えることができる。スポーツ選手のように「自分ができる」と常に鼓舞している方の話を伝えるのもよい。
- ・中学生と関わって、年々心に響くような行動が増えていることを感じる。心が真っ直ぐなら、行動も真っ直ぐになる。地域では、縁の下の力持ちになれるよう心を育てる力になりたい。
- ・学校や校外で生徒に会った時、表情が穏やかで落ち着いている。良い雰囲気になっていると感じる。
- ・対話的な授業をやると、他の人と話す中で相手の良さを見つけたり、相手との違いから自分の良さを見つけたりすることもできる。
- ・自分の良い所をいくつか出したりして、自分と向き合うことも必要だと思う。
- ・改善策が具体的に示されているので、その通りに実践して欲しい。
- ・2月4日の池上正氏の教育講演会の内容を、先生方にも知って欲しいし、ぜひ実践して欲しい。
- ・生徒には人に誇れるものが必ずあると思うので、できることを諦めないで、夢をもって過ごしてほしい。

これらの御意見を受け、先生方の意識を変えるためにも教員研修などで講演会を聴いたり、地域の方と交流したりすることで具体的な手立てが見えてくると考えました。来年度、そのような場を設定できるよう検討していきます。また、授業での職員の声掛けや指導に関して、個々の生徒に対する理解をより一層深め、生徒の自信につながるような指導を心掛けていきます。改善策の意義や有効性を高めるための方法を情報共有し、より良い学校風土をつくり上げていきたいと思います。